

---

# 魔法少女リリカルなのは 漆黒の抹殺者

亡靈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 漆黒の抹殺者

### 【NZコード】

N1244Z

### 【作者名】

亡靈

### 【あらすじ】

As編から、空白期 Strikersのんかで なのは、ファイト、はやて達が中学生として平穏に過ごしている時間その裏で暗躍する一人の少年の物語

## 第1章 プロローグ

はじめまして、  
亡靈です

初の一二次創作小説です

いたらない所もありますが、よろしくお願ひします  
この物語は、A S 編から空白期、Strikersに魔導師殺しを  
介入させてみた  
誤字脱字とか、文法が変  
とかあれば教えてください

### 第1章 始まりの物語

#### プロローグ

とある少年の話をしよう。  
この少年は人々の平和や幸福を願う。

そして、闇を嫌う、闇を殺すのは闇、この世界の矛盾、より多くより確実に、この世界からなげきを、減らそつと思つなら、取るべき道は、他になかった。

手段の是非を問わず、目的の是非を疑わず、ただ無謬の天秤れど少年は、ただ闇を殺す

とある管理外世界、そこの廃墟に居る一人の少年、歳は10代前半、14歳から15歳位の子供で、身長は同世代の平均より少し高いぐらいで、顔立ちは歳相応の幼い顔立ちで、目は、歳不相応で冷え切つた冷たい黒い目が特徴で髪の色は黒色で短く切つている。

なぜこの場所にいるかと思うと、この辺りで、銃声がなり響いているからだ。

そして、少年がつぶやいた。

少「ノワール、セットアップ」

この少年のセットアップした。

格好はFF?のスコールのようなバリアジャケットそして、右手には、ガンブレードが握られている。

## 「FFF? のリボルバー」

「OK、マスター わたと終わらわんぜ。」

少「ああ、120秒で戻を付ける」

そして少年が動いた、廃墟の地理を巧みに利用しあらにさすく前に銃を持っている男達を一人ずつ狩つてゐる。ただ、音もなく地面上に水が染み込んでいくよ。」

男達「！――！」少「邪魔だ。」と無感情に18人の男達を斬つていいく、その動きは、精密機械のように冷酷に狩つていつた。

そして、少年の田の前に一人の男が立つていて、名前は確かロンバステイン

このロン・バステインこの男は麻薬や質量兵器の密売などをしていると黙状を思い出すと、ロンが口をひらいた。

ロン「なんなんだよお前」と話しながら杖型のデバイスで魔弾を打つてきたが、

少年に当たる前に消滅し少年が動いた、ただ一言の言葉を発して。

少「見ればわかるだろ? ただの管理局員だよ。」と

ガンブレード型の「バイス」とノワールでロンの右腕を切断し苦しむロンが吼えた

「な、非殺傷設定じゃないだと！お前は、管理局だろ？」

少「お前には、抹殺許可が出ている。」と無感情に告げる。

そして、少年が次の動作に入つたただ、右側から、ロンの腹部をノワールで切り裂いた。

少「任務完了」

ノ「タイム1113秒、記録更新だぜ、マスター」

少「ああそうだな、ノワール。」あらゴースト4、HQ応答せよ。

「HQ」はもう確認した。「苦労さんゴースト4、帰還しろ、レイジ。」

レイジ「了解した、カレン隊長」

## 第1章 プロローグ（後書き）

すいません。戦闘が雑で、これが頑張っていきます。

## 第1章 ?話 突然の始まり（前書き）

今回もがんばります。

## 第1章 ?話 突然の始まり

??S I D

### 第三世界ヴァイゼン

今、俺が立っている場所は、とある高層ビルの15階の一室にいる。

? 「こちひり、ゴースト4、目標確認、指示を願う。」

「O」確認した、ゴースト4、速やかに任務を遂行しろ

「了解、任務を遂行する。」といつて通信を切る。今、俺が持っているのは、WA2000

この銃は第97管理外世界のワルサー社の銃だ。

口径は30.8口径 重量約7Kg 全長905mm 装弾数6発  
のブルパップ方式の銃でスコープはミッドチルダ製の最新式で通常モードと魔力感知モードがある。

種別 セミオートマチック のスナイパーライフルである。

そして、今、俺が居るビルから南から2kmに見えるビルの一室を今、WA2000のスコープで見ている。

今回の任務は、その一室である、とあるロストロギアの取引が行われるのに伴いその取引に参加するある人物の抹殺が今回の任務である。

ある部屋

「これが噂のロストロギアのレリックか」

「はい、最近になつて教会や管理局が探しているものです。」

「このロストロギアは古代ベルカの物です。」

とそのとき護衛の男が倒れた、その後に取引をしていた男も死んだ。

「目標確認狙撃開始」を合図にトリガーを弾いた。

まず最初に取引をしていた男の護衛を狙撃しセミオートで周りに居た男達を射殺した。

「任務完了」と無感情に

「アホリガースト4 任務終了した、これより撤退する。」

「了解した、一〇本部に顔を出せこれは、部隊長命令だ」

「了解した。」

時空管理局本局のとある部隊の一室

「ヨレイジ」苦労せん」

とこれを掛けたこの男アラド・グラシテ歳は一八で魔導師ランクはAAの陸戦魔導師の男

「ええありがとうございます。隊長はアホリガースト4 「奥の執務室に居るだ。」

「失礼します」と言つてドアを開けると、一人の女性が書類整理をしていた。

「おかれり、任務」古劣さんレイジ」といつて話してきた

「でなんですか、また任務ですか？カレン隊長殿」

カ「ええ貴方に」氏名の特殊任務よ「帰つていいですか。」「ダメよ」とあしらわれる。

レ「なんで自分のですか？」カ「情報四課からの懇望よ」

レ「なんでもまた情報四課からですか？」「やあ、ただ貴方を直々に指名してきたの」

レ「自分の情報は大将以上でないと閲覧できないはずですが？」

カ「ま 誰かがレイジの情報を開示したかはわからないけど、今回は、貸し出しでは無く、

異動よ特戦一課からの異動よ」

レ「わかりました。短い間でしたがありがとう御座いました。」「なそれだけ！」

レ「えええそれだけです。」といつて執務室を出る

「レイジを付けなさい」いつま最高評議会のお膝元よ。」「

「ええ心得てありますよ、隊長」「あなた10歳年齢詐称して  
るでしょ?」

「まだ13歳ですよ。」

といつて部隊の執務室をでた。

第1章　?話　突然の始まり（後書き）

スイマセン遅くなりました7

## 第1章 ?話 情報四課

管理局本局

情報四課SICO

時空管理局本局 情報課そこは、一課から四課まであり、時空管理局の諜報活動の支援や身内を監視しての防諜活動

ある時は、スパイ活動や犯罪組織えの潜入捜査あとテロリスト狩りがあり災厄暗殺任務を請け負う

ことがある。いわば情報四課は、管理局の汚れ仕事を担当し管理局の裏仕事に関わっている。

とそのコトを思いだいながら、指定された部屋に入った。

そこはただ広い部屋だった。

「…………\*」だが後ろから、気配を察しどうとに右へ飛んだ。

「いい判断だ、だが甘い」と声がした。若い男だったその直後、男がナイフを抜いた

そして小さな動作でこちらに接近しナイフで切りかかってきた。

「ちよこまか逃げるな」といつて、手首からもう一振りのナイフ

を足りだした。

「Jの男ナイフ戦はかなりできるな。

と思つたそのとき、「いい加減に死にやがれ！ガキ」と蹴りを放つてきた。

その蹴りを左手で弾き行動にでた。

「手加減するので、くれぐれも死なないでください。」と冷淡に言葉を発した。

男S I D

最初は旦那に頼まれた、任務だった

「今日うちの部隊に新人が来るから、試してやれ」と言われたと面倒と思つたが、このガキは面白い。

感もいいし、反射速度もいいしかもだが彼が驚いたのは、この少年が10歳そJの子供と分けが違

「Jのガキは、一言でいいゆつと、異常だった、恐怖さえ感じた。

そして田の前の少年が言葉を発した「手加減するので、くれぐれも死なないでください。」

といつてきた。

## レイジSID

戦略予測、この男は、ナイフ戦を好んでいる。

魔法面で、デバイスを使う気配はない。

なら答えは簡単だ、すばやく、男の左足に向けて蹴りを放つ「ち  
っ・・・・」そしてバランス崩した

次の瞬間、レイジはその後、男の右手をつかみ、肩の間接を外し、  
ナイフを奪い、男に奪ったナイフを突きつけた。

男「やるな、ガキ。」といつてきた。

だが少年がナイフを捨てて、言葉を発した。

レ「壁の向こうで高みの見物をしているのだらうへ、わざわざ出て  
て来い。」

????SID

そこには数人局員がいた。

「何できずかれた。」と一人の男性局員がいった。

「ありえないでしょでたらめよ」と少しヒステリック気味の女性局員が言葉を発した。

「Jの防壁は特別製で見えないはずだった。

レイジSOLID

「ナイフを貸し手ください」と男に向かっていった。

「あ・あ・いいぞ」といつて軽く投げてきた。  
「良い子は真似してはいけません。」

とナイフを借り手、そのナイフを壁に向かって投げつけた。

レ「Jんにちは」

といつて爽やかに壁を蹴り破った先に居たのは、身長は2メートルを超す大男だった。

「失礼と思わんのかね?」と大男が言つてきた。

「いきなり、ナイフを持って襲ってくる部隊は初めてですよ」

「いきなりの歓迎に戸惑つたかね？」 レ「いえ、そんなことはあつませんよ」

「と自己紹介が私は、情報四課課長、バ「バクスター・モーガン」等陸佐殿」私を知つてゐるのか。」

「ええ自分の行く部隊のことを少し調べましたよ」とたん単に話す少年。

レ「では」じちらも自己紹介「その必要はないよ、クジヨウ レイジー等空尉いや、魔導師殺しのクジヨウ君」自己紹介はいらないですね。

「

バ「よろしく、クジヨウ」尉」「じちらもモーガン」等陸佐殿

と手を取り握手をした。



## 第1章　？話　急変

？？？S I D

「また派手にやつたようだな、彼らは」と一人の男が言った。

「だが、建物ごと爆破はやりすぎだぞ」「一人の老人が

「しかし、まあその前の研究所の摘発に比べたらまだ可愛いものよ」

また一人の女性

「だが、公になつていない一週間まえの管理外世界の大統領の暗殺に比べれば軽いぞ」

また、一人の男性

「任務だ。」とバクスターの短い一言で、部隊が静かになつた。

「今回の任務はとある、物資の回収が、今回の任務だ。」

「回収任務ですか? うにの任務にしては、平凡な任務ですね。」

と一人の男性隊員が言った。

たしかに今回の任務より、ランクの低い任務だなど、思ったレイジだつた。

そしてバクスターが再び口を開いた。

「なお、今回の任務は特殊戦術一課との合同任務になる。」

その言葉を聴いた隊員達がざわめいた。

「何でよりもよつて特戦一課なのでしょうか？」

と隊員が言った。

「今回の任務の目標は、このケース回収がこの任務のもくってきだ。」

「回収任務なら、自分達できます。詳しい理由を教えてください。」

「今回の任務の詳細は、特殊戦術一課隊長のカレン・フッケバイン等空佐にご説明していただきます。」

と言つた瞬感全身に悪寒が発した。

「ビュル、 フックバインー佐お入りください。」

そして入ってきたのは、佐官の制服に身を包んだ、カレン・フックバインー等空佐だつた

カ「久しぶり、レイジ元気にしてた? 「帰つてください」ええせつかくきたんだからいいじゃない」

バ「つそろそろ本題にいいか? 」と少し怒つて いるバクスター

カ「ええええ、今回の任務の詳細は、このロストロギアの回収です。」

と画面の前に赤い宝石のような物が映し出された。

カ「このロストロギアは、聖王時代、古代ベルカの遺産で大変危険な物です。この案件に描いて

ジエイル・スカリエッティやカール・クラフトが背後にいることが判明しました。ですから、今回

の任務にたいして、特別部隊を創設し4日後の2000時において作戦を決行します。なお今回の任務に

対して、質量武装の許可もでています。この二人に対して、拘束が

「不可能なら殺害も許可が出てこます。」

「かなり急な作戦ですね、フックバイン一佐」

「えええかなり急ですけど、今回、四課は、一課のバックアップに回ります。」

「なぜ、後方なのでしょうか?」

「簡単よ、あなた達四課は、特戦一課の変則的な戦闘について行ける?」

「たしかに、きついですね。」

タシかに、四課では、特に変則的で独立行動の一課についていけない、だがなぜだそんなことより、

一課だけで、単独でやればいいこと疑問が残つた。

「なお今回、先行するのは、私達一課とそこで考えているレイジが先に行くから。」

「おいままでやー何勝手に先行組みにしてるのですか?」

「ええだって、この中で、まともにこいて来られるのあなた位よ。」

「ですけど「しかも、元がつくけど元特戦一課のHースが逃げるの」わかつました・」

「こまで言われたら、逃げられない。」

だが、回りは呆然としている、確かに

今回の任務のハードルが一気に上がったぞ、ジェイル・スカリエツティは一級の次元犯罪者であり遺伝工学や戦闘機人やプロジェクトFや違法な生態実験で次元世界で指名手配されている人物である。だが俺にとつて一番驚いたのは、この男、カール・クラフトである。元大魔導師であり、人を何とも思わない、災厄のテロリストでこの俺にとつてもつとも、憎く今でも殺したい人物である。

そんなことを思つていると、会議が終わった。

「ああそおそお、レイジあなたのコールサインは、まだゴースト4よ

「なんかノリノリですね。」

「ええとも嬉しいわ、だつえ、任務中にレイジを弄れるから。」

なんかこの任務とても寒気がしてきたな。

4日後作戦開始



現在、管理外世界の上空

「あと、5分30秒後に作戦開始だ、いいなヤロドー共」

「「「「「準備完了」です。隊長殿」」」」」

と急襲部隊の奴等ノリノリだな。

大丈夫かこの部隊と思つレイジだった。

と言葉を掛け合つ20人の精銳の管理局員達、

「この管理局員達は、特戦一課の強襲要員で、管理局裏部隊一位の実力のある部隊なのだ。」

特殊作戦一課 通称「特戦一課」「特一」

時空管理局本局所属の非公式部隊その実態は次元世界一帯が管轄の特殊部隊構成は強襲要員が30人

バックアップが10人その他にほかの管理世界に潜入している要員不明

といろいろ不明な点が多く、つ込み何処がまんさいの部隊である。この隊に入隊した者は、口ずけが記入されていない除隊届けを書く、そして入隊したものは、管理局 자체にいなかつた事になる。しかもこの部隊の特徴は、「殺す」に特化している。

とこの部隊のことを考える。

今、俺が乗つてゐるヘリは、航空武装隊が採用している、ヘリとは違う。

VSF-32「コードネーム「サイレント・ホーク」

モデルは、V-22オプトレイミニットチルダの技術で、強化改

良した。ベリ「テイルロータ機」である

特徴は、ほぼ無音かした高性能エンジンと魔力探知と赤外線レーダおよび視認不可のECSを装備しているところが特徴で、武装は操縦席の下にある12.6mmドアガンや、船体の横に付いている4連式ミサイルポッドが一つ付いている個付いている。

そんなことを考えていたら、アラドから話しかけてきた。

「よ、レイジ元気良そつだな。」

「お久しぶりですねアラドさん」

「いやいや、転属と聞いたときは驚いたがな。だがまたお前と肩をまらべて、任務出るとは思わなかつたよ。」

「ですが、この任務はおかしいコトだらけですよ」

「普通に考えてください、2人の大物犯罪者の逮捕もしくは殺害おかしいと思こませんか?」

「タシかにくさいさだが、これは任務だ、余計なことを考えるなよ」ゴースト4

「あそおそおサイファーの姉貴とフォルティス奴も心配してたぞ。

」

「げ、あのB」「バトルジャンキー」とあのエセ詐欺師がか?」

と本氣で、嫌な顔をする。

サイファーはある意味バトルジャンキーで、エセ詐欺師のフォルティスは嘘か真実よくわからないし本心が掴めない人物である。

サ「久しぶりだなレイジ」

レ「お久しぶりですね、ゴースト2、それと、そこのエセ詐欺師」

フォ「酷いですね、レイジまだ怒っているのですか?」

レ「それは、酷いですね。あなたの作戦で一番貧乏くじを引いた

のはだれでしたっけ?」

「嫌だな、それわたまタまですよ~」と笑顔で

サ「だがレイジの行つたとおつこの任務は急過ぎる何か裏があるかもしれないな」

と話を戻すサイフラー

「でも姉貴、この任務を回して来たのは、管理局の上層部ですよ。」

「だから、サイファーとレイジは疑問が残ると」とこゆつフオルテ  
イス「エセ詐欺師」

「だから私は詐欺師ではあつませんよー。」

「なんだ自覚症状あるんだ」とレイジ

「いやいやむしろ自覚ないほどヤバイぞ」とアラード

「まあタシかにフォルティスは策士だからな」と納得するサイフ  
ア一

と話していると、前から、隊長から指示が来た。

「お前ら、これからこの任務の最後の確認だ。」

とその言葉で部隊全体が、真剣な顔に戻った。

「まず、武装確認」とカレンがいゆうと皆が一斉に、獲物の確認に入る。

レイジ達が持っている物は、デバイスでもなく、ただの質量兵器を装備している。

装備のメインはH&KのG36、口径は5.56mmで30連發でセミオートとフルオートがついていて初期装備で四倍率のダットサイトが付いています高性能アサルトライフルである。

サブはグロック17を装備している。グロック社の拳銃で口径は

## 9mmで17連発の拳銃

スライドはステンレス製で、フレームはFRPで出来ている。色は黒で銃口の下に20mmのアンダーレイルが付いている。

そして腰のポーチには手投弾が一個「M67」手投弾は半径8メートル以内の物を殺傷する能力を持つている。

そのほかにサバイバルナイフやC4爆弾やスタングレネードなどを装備し部隊の格好は

黒色の戦闘服に身を包み、その上にタクティカルベストを重ね着し、そして自分のデバイスを装備している。

魔導師の天敵は何かそれは、質量兵器である現代魔導師は魔法に頼りすぎ質量兵器を軽視する。

だからこの戦闘スタイルが魔導師にとつて天敵に成る。

だが、レイジには隠しているレアスキルと裏技や、誰にも見せたことのない手札がある。

だがそれは最後の切り札はまだかくしておきたのがレイジの本音である。

そんなことを考えていると、降下ポイントに付いた。

「いいか皆聞け、これは命令だ！死ぬなそして生き延びろ以上！

## 作戦開始

とカレン隊長の言葉だった。

「サア—イヒカ—」

と部隊員の声が重なり合う

「降下準備良し、降下 준비가」とくつのパイロットが合図を出す

「作戦開始より全ユニットダイブ作戦はB-3行動開始」

「降下地点で会おう。」

と次々にヘリから降下する隊員達

「上空180メートルからの自由落下か」と軽くレイジ

「あら怖いのレーベジ」「ほんとせになしてるんですか隊長」い  
いじやない

「は～ああこかわいぢですかね」

「まいりですけい、お先に行きましたよ隊長殿」

「ええ地上で会いましょう」  
「4」

「OK!」  
「スト」

といつてへりから飛び降りる

「のあと後悔した」のときの任務を



レイジS.I.D

ハーアつとため息をする。

なんで、パラシュート無しで上空180メートルからの自由落下  
なのか？

それは、作戦前のブリーフィングの時、隊長の一言から始まった

「わあ今回の目標は、この施設の破壊とこの施設にこもるのもおしき広域次元犯罪者」名の拘束もしくは殺害だけじ、奇襲プランは、空からのヘリボーンで、行くから。」

「…………アジですか隊長」「…………」

「それでは、敵に発見されますよ」と一人の隊員

「今回は、空からではなく陸路で行きましょう」

と二人目の隊員

「陸路だと発見される確立が高いのよ。それとの施設の警備に使われている物がこれよ」

といつて、田の前のスクリーンに映し出された

「この無人の警備ロボットが確認されています。」

「まあいい」とこって画面に出たのは、アリム田のような

形態をしたロボットだった。

「こちらは、通称ガジョードローンといつて普通の魔導師にとつて天敵よ、このドラム缶はAMFを持つ手いるのよ」

の彼女の一句で、皆が真剣な表情になつた。

「AMFの有効範囲はどの位ですか。」

と一人の隊員が

「わかれないは、でもそれ以外も確認された厄介や物よ

と画面に出てきたのは仮面を付けた男たち

「カールクラフトの部下 通称「コーパス」が今回の偵察で確認された。」

全員が、さらに真剣になつた。

コーパス

それは、かつて魔導師だった物、カールクラフトの操り人形

次元世界の優秀な魔導師の遺伝子を使い作り出された魔導師達

自我を持たず主の命令を聞く

冷酷なキリングマシーンである。

「オープスの平均魔力ランクは最低で△△ランクでその辺の局員では歯が立たない。

H-1級やストライカー級の魔導師を投入しても、犠牲者が増えるだけである。

「オープスは独自のネットワークを持つており、一つの固体が受けたダメージを次の固体にフィードバックする特性がある。簡単にいふと次からその魔法戦闘が、学習されその戦法が役に立たなくなるといふ特性がある。

「そんなことだから、派手に上空180メートルからの自由落下よ」

「さすがに、オープスを正面からの戦闘は避けたいな」と一人の隊員

「…………確かに」「…………」「…………」

とつなづく隊員達

確かに正面からの行くよつましだからなと思つたレイジだった

「じゃこの作戦で決まりねー」

とこんな感じのブリーフティングだった。

そして現在

現在絶賛降下中

さつこ風圧にも負けず降下していく隊員達

そして目標地点が見えてきた。

「ゴーストベットよりオールゴースト聞こえるか？」

と念話がきた

「もう少しで地表だ、40で減速  
10で重力変化で着地だ。  
いいな」

レイジSID

「残り10重力変化だ。ノーワル」

「OKマスター」

と短く返事をするノーワル

9、8、7、6、5、4、3、2、1、0

「こちらゴースト4着地完了」

「上出来だゴースト4、パーティの時間だ派手に行くぞ。」

と研究施設の在る山岳地帯に下りたつた

ダダダダダダダダダッダダッダアだDd

「「「「「「「「「「こちらオールゴーストオープンコンバット」」」」」」

「兵器使用自由戦闘開始」とカレン隊長の念話が響く

と鳴り響く、ライフル銃の銃声

「チツ、 ガジェットか、」と書いて、G36のトリガーを引く  
だだゅつだつだつだと得意の指きり射撃で3発一セツトで打  
ち込んで行く

そんな時、通信に入る

「いやあ、ゴースト11コープスと会敵、戦闘を開始する。」

「いやあ、ゴースト5同じくコープスと会敵した。」

チツと心の中で舌打ちをする。

「こんなに早くコーポスが出てくるとは

「マスター 前方に魔力反応あり、こちらに接近します。」

「探知されたか数は?」「12時の方向に3つ、4時方向に5つ」  
わかつた

「合計8体に、12体に増えました。」

「\*\*\*\*\*」

「ちちゅ、ゴースト4 コープス12体と戦闘に入ります。」

「了解したゴースト4、????12体だと?????」

「はい、「はいジャナイ、お前死ぬきか?」何ですかいきなり。  
「まったく、死ぬなよ」

「了解」

走る、走る、「マスター完全に追尾されてます」「わかっている

「アーロ2聞こえるか、アーロ2「聞こえているよ、ゴースト4  
じゃ悪いんだけどし3区画に破碎射撃の火力支援頼む。」「了解した  
10秒まで、10·9·8·7·6·5·4·3·2·1発射、彈  
着まで5秒—————彈着—————」

「ドドドドドオッドオドドドドドドオッド

と飛んでくるミサイルの数6そのミサイルの先端から分離しその弾  
頭から無数の小型のミサイルが降り注ぐ

「これで、破碎射撃は、手仕舞いだ。」「ありがとう、アーロ

「

「頑張り、ゴースト4、」

「ああ了解した。」

「さて半数位クタバツタかな、」段々爆炎が晴れてきた。

「＊＊＊＊・・￥￥￥￥／／￥／／／」

カールSID

「ジエイル敵襲だ君は、退散した前え」

「ああそつするよ。カール」

さて管理局かな？

そして、モニターを見ると、そこには、コーパス12体と戦う少年がいた次の瞬間

空から、クラスター爆弾が、降ってきた。

レイジSHD

おこおいやり過ぎだる。オーバキルだろ。と思った

「マスター前方から着ます。」

「チジ、まだ生きているのか、よ

「あと、3体

3分の1か

また、走りながらG36を撃ち「一バスを牽制する。

ダダツダツダダダダダダダ

そしてカチ、と金属音が聞こえた、弾切れか、  
身を隠しマガジン交換する。

カレンSIDI

「こちら、ゴースト、11・8、9からゴーストヘッドへ入り  
口を発見しました。指示を」

と隊員

「突入しなさい。ゴースト11・8・9」

「私も、突入するから。」

「ゴーストヘッド、私たちも合流します。」

「OK、ゴースト2内部で合流しましょう。」

「OK ゴーストヘッド ゴースト2、3、了解」

カル SID

「クツクツ、面白い」

と不気味な笑い声が響いた。



## 第1章 ?話 戦闘開始前編（後書き）

部隊メンバー

ゴーストヘット カレンフッケバイン

ゴースト1 イグニス ボルガー

ゴースト2 サイファー

ゴースト3 フォルティス

ゴースト4 レイジ クジョウ

ゴースト5

ゴースト6

ゴースト7 以下省略

ゴースト



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1244z/>

---

魔法少女リリカルなのは 漆黒の抹殺者

2012年1月5日19時47分発行